



6月6日 (雨天の場合中止)

齋宮歴史博物館会場

## 齋王市 前夜祭

15時～21時 17時～21時

開会式・齋王他出演者披露

FM三重でおなじみの

「あつ」と「えりか」のトーク&ライブ

三重高校ダンス部 出演予定

6月7日 (雨天の場合中止)

## 出発式・禊の儀

## 齋王群行・社頭の儀

12時頃～15時頃 さいくう平安の杜～上園芝生広場～齋宮歴史博物館

## 齋王市・アトラクション

10時～15時 齋宮歴史博物館会場

# 齋王まつり

第三十八回

三重県明和町





配役

さいおう  
齋王

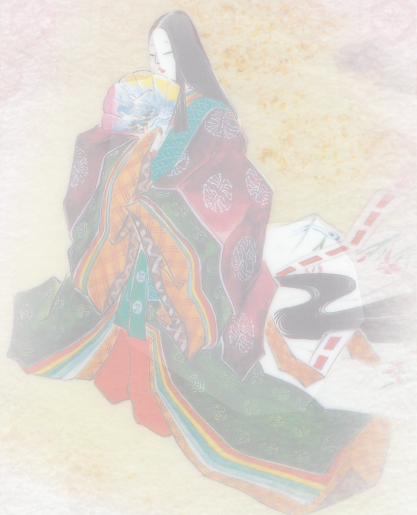


梅田 優歩  
(伊勢市)

子供齋王



杉山 釉菜  
(明和町)





## 第三十八回 斎王まつりを迎えて

令和二年 新型コロナウイルスが、日本国内はもとより全世界で猛威を振るい始めています。

そんな中、二月には「子ども斎王」が杉山釉菜ちゃんに決まり、そして「第三十六代 斎王」に梅田優歩さんが選ばれました。

会議ができない、選考会が開けない中、その配役選考会は初めての試みで、VTRでの選考会となりました。

選考される皆さんから動画を送っていただき、その動画を選考委員の方々に選考していただくという画期的な選考会となりました。会としてこの情勢の中、何ができるか模索を重ねての試みでした。

今年度は、サブタイトルを「悠久の平和を祈る」としています。

そのタイトルどおりに今年二年、第三十六代斎王の梅田優歩さんと子ども斎王の杉山釉菜ちゃんには、新型コロナウイルスの終息と人々の幸せをお祈りしていただけるものと思っております。

そして斎王まつり実行委員会一同、皆様の健康とご多幸をお祈りしております。

斎王まつり実行委員会 広報班

(雨天中止)

6/7 (日)

(雨天中止)

6/6 (土)

斎王市

15時～21時

斎宮歴史博物館会場

前夜祭

17時～21時

斎宮歴史博物館会場

開会式

改元記念「大来皇女物語」

斎王他出演者披露

特別ゲスト

あつとえりか

斎王市

アトラクション

10時～15時

斎宮歴史博物館会場

出発式

12時15分

さいくう平安の杜

協力参加

皇學館大学雅楽部

斎王群行

13時00分

さいくう平安の杜から

斎宮歴史博物館会場まで

禊の儀

13時30分

上園芝生広場

社頭の儀

14時50分

## もくじ

斎王まつり配役	2
斎王まつり童・童女出演者	4
斎王群行をめぐることも	6
	9
斎宮跡の発掘調査	10
いつきのみや地域交流センター	12
あつとえりか紹介	13
斎王一覧	14
	15
図書の紹介 / 実行委員会組織体制	16
斎王まつり実行委員会活動	17
群行衣裳	18
フォトコンテスト	20
斎王役を務めて	22





# 斎王群行をめぐるいさごとくも

斎宮歴史博物館 学芸普及課長

榎村 寛之

群れて行く、と書いて群行といいます。斎王が都から伊勢斎宮への旅自体を儀式ととらえ、こういう言いかたをするわけです。斎王まつりの行列がこの斎王群行を模したものだということとはご存じの方も多いかと思いますが。しかしこの言葉は正式な法制用語ではなく、たとえば斎宮の決まり事を詳細にまとめた十世紀の法律細則書『延喜式』の斎宮関係の条、通称『延喜斎宮式』にも出てきません。そんな群行のことどもについて少しお話をしてみましよう。

## 一、群行に参加する人数について

この言葉は貴族の日記や、有職故実書、つまり儀式についての手引書の中で使われるようになったものです。参加者ではなく、記録した人や仕切る人の印象からできたことばだといえるでしょう。まさに人が、アリの引つ越しのようにならわらと都を出ていく行列、それが群行なのです。

斎王の行列は伊勢への旅の他にもあります。

たとえば斎王は伊勢神宮に年間三回、九月神嘗祭と六月・十二月の月次祭の時に行列しますが、この行列を群行ということはありません。また、京の賀茂神社に仕えた賀茂斎王、通称斎院も、賀茂祭、つまり今の葵祭の時に普段暮らしている斎院から下鴨、上賀茂社へと行列し、それは賀茂祭の行列の中心ともなるものですが、これも群行とは言いません。ではこれらの行列と群行はどう違うのでしょうか。

群行はとにかく人が多く、規制も厳しいのです。まず群行に先立ち、朱雀門の前などで臨時の大祓が行われます。さらに群行のある九月は忌月とされ、北辰（北極星）を祀る祭祀（現世利益が多い）や、改葬などは沿道諸国では禁止されます。斎王の旅は厳肅な雰囲気の中で進められており、長暦二年（一〇三八）の群行の詳細な旅日記が残されている藤原資房の日記『春記』（旧田中家所蔵本）でも、地域の人々との触れ合いなどはほとんど書かれていないのです。そして斎王の旅は、たんに斎王を送るだけではありませんでした。

『延喜斎宮式』によると、斎宮で月料、つまり月給をもらう人たちは男女あわせて500人を超えています。そのすべてが都から伊勢にやってくるわけではないでしょうが、忘れてはいけないのは、二年余り無住だった斎宮に着いた斎王は、翌日から普通に暮らしていけないと、群行した意味がないということです。つまり斎王が到着する以前に、斎王の生活を支える人々や生活調度は整えられていないといけないわけで、その中には当然都から運ばれた物も沢山のあったはずなのです。それらを誰が運んでいたのか、斎王群行の月には、もつと沢山の人が都から伊勢に向かっていたと考えられます。

古代最後の官撰、つまり国家が編纂した歴史書『日本三代実録』は、九世紀後半の社会や政治を知る重要な資料です。その元慶五年（八八二）正月十九日条には、陽成天皇の時代の斎王で、異母姉妹の識子内親王の帰京についての記事があります。この時は父の清和上皇が亡くなった帰京なので、伊賀から大和を通りますが、その時にも、斎王に直接関わらない下働





きの人たちなどは行きと同じ近江路を通ることになっていました。そして斎王の陪従（随行者）は二一九人、さらに河陽宮（今の京都府大山崎町）から難波津（大阪市）に船で向かい、陸路で戻る時には一〇〇人と記録されています。帰京の時でもこのくらいいたわけですから、群行に関わる人たちが五〇〇人というのあながち誇大とはいえないでしょう。

まさに斎王一人のために大量の人や物が動く大移動、それが斎王の群行、群れて行くと呼ばれた旅の有様だったのです。

## 二、群行と牛車

さて、『源氏物語』「賢木」の巻には、先の皇太子の娘（光源氏の恋人、六条御息所が母親）の女王が斎王となり、都を離れる日の出来事が記されています。その中には

「〔斎王が〕退出されるのを、お待ち申し上げようとして、八省院（朝堂院のこと）に並べ立てた供奉の車から、のぞいてる衣の袖口や色合いも、めずらしい趣で、奥ゆかしい様子だから、殿上人（高級貴族）たちも、めいめい別れを惜しんでいる人が多い。（現代語訳は、玉上琢彌『源氏物語評釈』 角川書店 一九六五年 より）」という一節があり、斎王が「別れの小櫛」を天皇から受ける儀式（映像展示『斎王群行』をこ

覧ください）の時に、その南側にある広い朝堂院の庭中に女房達の牛車が待機している様子が記されているのですが、この描写についてかつてさんざん悩んだことがありました。それは博物館開館時、展示室Ⅰにある斎王群行模型を創った時のことです。もともと斎王群行行列がどういう構成だったかを書いた資料はありません。そこで『延喜斎宮式』に見られる参加者と『儀式』という資料に記された九世紀の賀茂祭行列とを組み合わせ、問題のない範囲でラフスケッチを描いたのですが、引かなかったのが牛車の事でした。

この時代に女性が移動をする時はたしかに牛車を使います。だから、斎王（賀茂斎院）が参加する賀茂祭の行列には斎王や供奉（随行）の女官が乗る牛車が出ました。しかし牛車は本来京内のような広い道を通るための道具で、鈴鹿峠のようなおそらく細く険しい山道を果たして通れるのか。少なくとも四人は乗れる、つまり現在の軽乗用車以上の大きさがあったと考えられる牛車が、今でも二車線道路の鈴鹿峠を果たして越えられたのでしょうか、あるいは当時の鈴鹿越の道はもっと広かったのでしょうか。しかしこの『源氏物語』の一節を見つけた出てきたことで、牛車のミニチュアを群行模型の中に入れるという理屈はつきました。とはいえ、牛車の問題はずっと引っかかっていたのです。

そもそも源氏物語が書かれた一条天皇の時代には、天皇から見ると従姉妹にあたる恭子女王という斎王が二〇年以上も伊勢にいたのですが、彼女が伊勢に向かったのはおそらく紫式部が宮仕えする以前、つまり紫式部は、この場面を宮中で斎王の旅立ちの儀式的体験から書いているわけではないのです。そしてこの斎王の旅立ちには、斎王の母の六条御息所が同行しており、彼女は当代屈指の文化人ということになっていきますから、この車は御息所に仕える女房たちの車だった可能性も高く、通常の斎王群行とは同列ではない、ということも考えられたのです。

この疑問を氷解させたのは、その数年後に活字化された『春記』（田中家本）で、そこには女房たちに網代車が五両用意されたことが明記されていたのです。しかしこれで問題解決とは行きませんでした。続けて「人々は、狭い路を牛車で行くのはいかなものだろうか、と云っている（訳は榎村『春記』長暦二年九月、良子内親王群行記事原文と現代語訳）『伊勢斎宮の歴史と文化』所収 塙書房 二〇〇九年）」と記されているからです。

そしてこの危惧は、鈴鹿峠を越える時に的中しました。鈴鹿の山道は険しいこと極まりなく、棧（さん、横板を何枚も渡して広げた道）があるが、それでも所々で下馬をしたとあります。





そして、女房の車は、隨身（お供の武士）がいるがどうしようもない、とも記されています。やはり牛車で峠を越えるのは大変な難事だったのです。

鈴鹿の山道の入り口に着いたのは巳の刻のはじめ（午前十時ごろ）、女房達の車が峠を越えて、今の亀山市関町にあった鈴鹿頓宮に着いたのは午後十時頃だったといえますから、いかに大変な一日だったかがうかがえます。しかし平安時代の女性たちは、この峠を越えていたのです。女房の中には下車して馬で来た者もいたといえます。齋王の従者には馬も与えられており、馬を使える女性たちもいたのです。なんとという強さ。御簾の奥でひっそりと気楽に暮らす女房たちは、実はこれくらい生命力にあふれた人たちだったのです。

### 三、鈴鹿峠を越えること

このように、齋王群行の最大の難所は鈴鹿峠でした。そのためか、齋王群行にかかわる歌にも、鈴鹿山を詠み込んだものが少なからず見られます。

六条御息所が娘とともに齋宮に下ったというエピソードの典拠になったと考え

られている、元齋王で村上天皇の女御（妃）になった齋宮女御徽子女王が、貞元二年（九七七）に娘の齋王親子内親王の群行を追って鈴鹿峠を越えた時には、こんなやり取りがありました。

世にふればまたも越えけり鈴鹿山

昔の今になるにやあるらん

（齋宮女御集）

と、親子内親王の返歌

鈴鹿山しづのをだまきもろともに

ふるにはまさることなかりけり

（同）

という有名な贈答歌があります。

この歌は、『伊勢物語』に見られる

いにしえのしづのをだまきくりかへし

昔を今になすよしもがな

という歌を贈答歌ともに踏まえていて、『伊勢物語』といえは齋宮の物語、と当時見なされていたことをうかがわせ興味深いものののですが、ここでは「ふれば」「ふる」という言葉に注意してみたいと思います。

この「ふる」は、鈴を「振る」にかけています。「鈴」鹿山といえは「振る」を連想し、「振る」は「旧る（年月を経る）」を連想する言葉だったのです。そして鈴にはもう一つ「鳴る」という属性

があります。これは「成る」「為る」つまり達成されるという意味にもつながるのです。

齋宮女御の夫であった村上天皇が、娘の齋王薬子内親王の群行の際には、こんな歌に硯を添えて旅を行く娘に送っています。

思ふことなるといふなる鈴鹿山

越えてうれしき境とぞきく

（拾遺和歌集）

鈴鹿山は、天皇の願い（思ふこと）が達成される（なる）山であり、その境を越えることが、齋王の大きな任務だったことがうかがえます。

鈴鹿といえは、平安時代には、山賊や鬼女の伝説で知られた所です。そんな難所を越えた先にあるのが、伊勢の国なのです。

### おわりに 群行を寿ぐ相撲人

このように齋王の群行については、この三十年ほどの間に、その内容やその背景など色々なことが分かっても来ています。齋宮歴史博物館の映像展示『齋王群行』はその成果の結集とも言えるべきものです。しかしまだまだ分からないことも

多く、知りたいことはたくさん残っています。

さて、最後に、新しい手がかりになるかもしれないエピソードを一つ。良子内親王の群行の記録には、地域の人々との触れ合いがほとんど記されていませんが、一つだけ例外がありました。壱志頓宮（現在）の松阪市内に、「相撲人頼経」という人物が色々な手土産を携えて訪ねてきたというのです。相撲人というのは、宮中で行われる相撲節会にその国の代表として参加する専業の人、つまりプロのお相撲さんで、最も強い「最手」と呼ばれた人などは拔擢されて貴族の従者になることもありました。もともと相撲とは邪を祓う儀式の一つなので、齋王の旅を祝福に現れても歓迎されたのでしょう。多くの場合、相撲人は地域の有力者なので、これは今の松阪市周辺の有力者と齋王の関係がうかがわせる興味深い資料でもあるのです。



# 国史跡齋宮跡の発掘調査

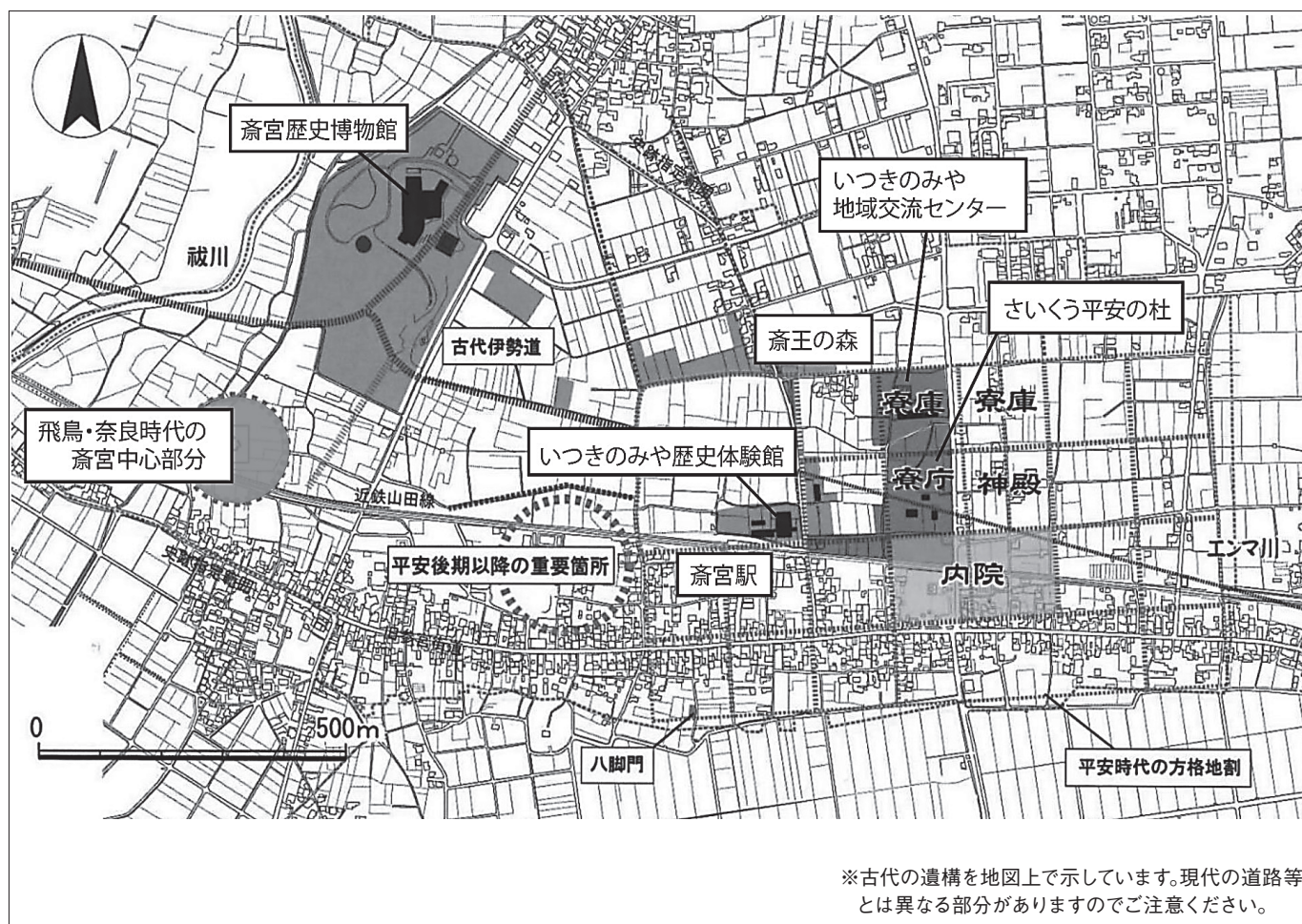
～飛鳥時代齋宮の実態解明へ～

国史跡齋宮跡では、齋宮歴史博物館が中心となり、地域の皆さまや明和町の協力のもと、一九七〇年から実態解明のための発掘調査を続けてきました。これまでの発掘調査は「さいくう平安の杜」の周辺での調査に重点を置いてきましたが、その結果、奈良時代末から平安時代初め（八世紀末～九世紀前半）に、京都の平安京のような都と同じ設計方法で、当時としては東海地方最大級の古代都市が営まれていたことが明らかになっています。

その一方で、齋宮が明和町のこの地におかれるようになったとき

れる、飛鳥時代から奈良時代（七世紀末～八世紀後半）の齋宮の実態はあまりよくわかっていませんでした。そこで、齋宮歴史博物館は現在、同時代の齋宮実態解明に重点に置き、発掘調査を行っています。

平成三〇年度第一九三次調査では、掘立柱塀で囲まれた飛鳥時代の方形区画の北東角を発見しました。これにより、区画が東西約四〇メートル・南北五〇メートル以上ということがわかりました。そしてその区画内部には掘立柱<sup>ほったてばしら</sup>建物<sup>たてもの</sup>が見つかりました。また、第一九五次調査では、その方形区画



※古代の遺構を地図上で示しています。現代の道路等とは異なる部分がありますのでご注意ください。

第1図 史跡齋宮跡全体図



の西側で多くの倉庫が立ち並ぶ「倉院」が発見されました。これらの遺構の方向は、真北を向くのではなく北から東に約三三度傾くという共通した特徴があります。

令和元年度には、第一九七次調査を第一九三次調査地の南側隣接地で実施し、第一九三次調査で検出した掘立柱塀の続きと掘立柱建物2棟（うち1棟は建て替えあり）を確認しました。そして、この掘立柱塀に付属する東門を確認しました。この他特徴的な遺構として、掘立柱建物の西側に添う南北方向の溝があり、これは建物と西側の空間とを区切る塀のようなものと考えられます。

令和元年度の調査では、飛鳥時代の区画には、東側に入出口である門とその区画内部に建物に伴うことがわかり、一部ですが区画の構造を明らかにすることができました。

飛鳥時代の方形区画の内部ではどのような人々が、どのような活動を行っていたのか、そしてここに「斎王」がいたのか。今回の調査成果を検討するとともに、今後の発掘調査でも明らかにできる材料が増えることでしょう。引き続き、斎宮跡の発掘調査にご注目ください。



写真1 第197次調査区全景（東から）



写真2 門（人の立つ部分が柱。東から）



第2図 中垣内地区の解明状況

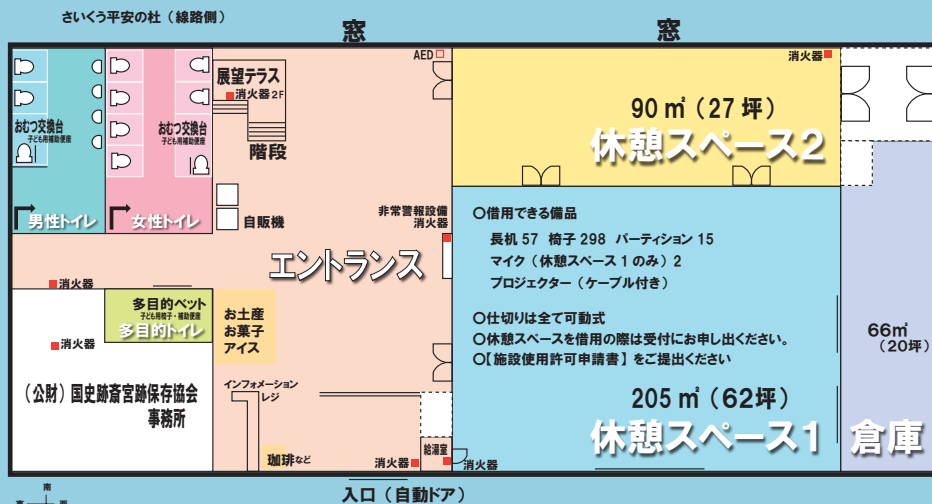


# いつきのみや地域交流センターの紹介

『いつきのみや地域交流センター』と少し長い名前がこの施設。どのような施設でしょうか？今回はいつきのみや地域交流センターについてご紹介いたします。

近鉄斎宮駅から歩いて約5分のところに平成29年4月にオープンしました。

『いつきのみや地域交流センター』は外観が白で統一されており、2階建ての施設です。有料の



いつきのみや地域交流センター

貸しスペースがあり、会議や講演会だけでなく、様々な用途で使用できます。これまでに同窓会・囲碁やかたる・ダンス・コンサートなどでもご利用いただいています。

「休憩スペース1」「休憩スペース2」「エントランス」とあります。スペース1は正面に木がふんだんに使われ、広さは62坪(205㎡)と広く椅子や机を使用してゆったりと席を設けると約100名様収容できます。プロジェクター用のスクリーンや音響・マイク・給湯室も完備しております。スペース2は南向きで中庭への出入りができる窓があり、とても明るく開放的です。こちらにはスクリーン等はありませんが、長方形型で広さは27坪(90㎡)あり、こちらは約50名様収容可能です。休憩スペース1と2、エントランスとを仕切っているのは可動式のパーテーションで、大きなイベントの際には全て取り外して使用できます。休憩スペース1と2で椅子のみの利用で最大300名様収容できます。南向きの暖かな日が差し込むエントランスでは、斎王まつりで実際に斎王役が乗る「葱華輦」の展示を行っており、間近にご覧いただけます。おまつりの日は残念ながらご覧いただけませんので、後日ご来館ください。またオリジナル商品やお菓子などの販売も行っております。持ち込み弁当など持参し休憩もできます。また、奈良時代の天平衣装をイメージした装束の体験は服の上からカンタンに着ることができ、女性は全体的に明るい色目の装束に、かつらや小物もあります。男性は、帽子にしゃくもあ



ります。今流行りのSNS映えること間違いなし！お子さまは3歳くらいから着付けすることができますので、ぜひご家族やお友達同士で体験してみたいかがでしょうか。1時間自由に散策できて大人1000円子ども500円と気軽に体験できるのうれしいところ。着て、さいくう平安の杜やいつきのみや歴史体験館で写真を撮りながら、コスプレを楽しんでみるのも良いかもしれませんね。

2階には展望テラスがあり、斎宮跡の景色を見渡せます。階段が苦手な方も1階のエントランスから同様な景色が楽しめます。南には近鉄線があり、電車が大好きなお子様も安心してご覧になれます。

少し『いつきのみや地域交流センター』のことがお分かりいただけたかと思えます。

それでは、一歩外へ出てみましょう。玄関前に広がるのは芝生広場と石畳の広場です。広場には車両は搬入時のみ進入でき、一般車両は駐車スペースまでとし広場には入れませんので、安心してウォーキングや運動をしたり、小さなお子様を歩かせたりボールなどで遊んだりして広場を自由にご利用いただけます。ひと休憩できるあずまやもあって嬉しい限りです。

何かで使いたいなと感じましたら、気軽に受付にてお尋ねください。またみなさまの交流の場として、イベント等も企画し、より使いやすい施設を目指していきます。どうぞよろしく願いたします。

## いつきのみや地域交流センター

開館時間 9:30~17:00

休館日 月曜日(祝日の場合は翌日、年末年始12/29~1/3)

管理:公益財団法人 国史跡斎宮跡保存協会

住所:〒515-0321 三重県多気郡明和町斎宮2811番地

TEL:0596-63-5315

E-mail:center@itukinomiya.jp

ホームページ:https://www.itukinomiya.com





# FM三重でおなじみの あつとえりか



## シンガーソングライター「あつ」

三重県出身

・ギター弾き語り女性シンガーソングライター。

2006年フジテレビ系「めっちゃ×2イケてるッ!」エンディングテーマ「笑学校(しょうがっこう)」でメジャーデビュー! メッセージソングを中心に繰り広げるライブは、学校や研修会でのトーク&ライブとしても好評! また三重県交通安全キャンペーンソングをはじめ、三重県津市のご当地グルメ「津ぎょうざ」PRソングなど、様々な企業・団体のイメージソングやキャンペーンソング、小学校の校歌(作詞)などの制作も手掛ける!

また、全国各地を歌い巡る一人旅で、120泊以上の車中泊を経験し、現在はキャンピングカーオーナー。

ソロキャンプもこなすアウトドア派。

「あつ」公式ホームページ <http://www.atunti.com/>

【レギュラー番組】

◆レディオキューブFM三重  
イオンモール明和プレゼンツ  
「あつとえりかとみんなのラジオ」メインパーソナリティー

◆ZTV(津ケーブルテレビ)  
「ひるナマ」リポーター



## 多田 えりか 1.14生 O型

愛知県小牧市出身

学歴:同志社大学卒

資格:社会福祉士(特別養護老人ホームにて勤務経験)、アロマセラピー1級、食農3級

趣味:健康、美容、コスメ、ショッピング、カフェ、はにわ集め、ソウル・ファンク、こどもと遊ぶバラエティから社会派まで、素人さんから芸人さんまでどんなシチュエーションでもアドリブをきかせ、現場を明るく盛り上げます!

【最近の主な司会実績】

名古屋まつり 会場行事、旅まつり名古屋、にっぽんど真ん中祭り、ふるさと全国県人会まつり、尾張名古屋の職人展、オールトヨタビッグホリデー、トヨタ白川郷自然学校10周年記念式典  
中部電力 × アピタ・ピアゴ IHクッキングショー  
食の健康&ウォーキングイベント他  
ビジネス・サミット〜東海・北陸「うまいもの」大商談会〜  
スギ薬局グループ 健康・キレイ応援フェスタ  
ベトナムフェスティバル in 愛知  
あいちグルメまるごと食べ隊フェスタ、愛知県警ふれあいフェスタ  
衆議院議員総選挙、愛知県知事選挙、名古屋市長選挙 名古屋選挙フェスタ 各メインイベント  
こころの健康フェスタなごや  
KIRIN お客様感謝イベント(山口智充トークショー)in エアポートウォーク名古屋



肅王の伊勢滞在期間は短くて二年、長い人では三十二年という例があり、年齢は五歳から十五歳の少女に集中しており、最高で群行時三十二歳という肅王もいます。

△は斎宮に群行しなかつた斎王

南北朝		鎌倉		平安																																						
○柔子（やすこ）	八九七、九三〇	醍醐	（八九四） （九〇五） （九二二） （九二七）	遣唐使廃止 古今和歌集撰上 齋宮寮の失火（扶桑略記） 延喜式完成 齋宮に関する細則も納められる（延喜式） この頃竹の都と呼ばれる（大和物語） 土佐日記 重明親王女 徽子女王群行（貞信公記）	○雅子（まさこ） 九三一、九三五 朱雀	○齋子（きよこ） 九三六、九四五 朱雀	○徽子（よしこ） 九四六 村上	○英子（はなこ） 九四七、九五四 村上	○悦子（よしこ） 九五五、九六七 村上	○樂子（やすこ） 九六八、九六九 冷泉	○輔子（すけこ） 九六九、九七四 円融	○隆子（たかこ） 九七五、九八四 円融	○規子（のりこ） 九八四、九八六 花山	○涪子（なりこ） 九八六、一〇一〇 一条	○恭子（たかこ） 一〇一二、一〇一六 三条	○当子（まさこ） 一〇一六、一〇三六 後一条	○良子（ながこ） 一〇三六、一〇四五 後朱雀	○嘉子（よしこ） 一〇四六、一〇五一 後冷泉	○敬子（たかこ） 一〇五一、一〇六八 後三条	○俊子（としこ） 一〇六九、一〇七七 白河	○淳子（あつこ） 一〇七八、一〇八四 堀河	○媞子（やすこ） 一〇八七、一〇八七 鳥羽	○善子（よしこ） 一〇八七、一〇八七 鳥羽	○姤子（あいこ） 一〇八七、一〇八七 鳥羽	○守子（もりこ） 一一〇八、一一一三 崇徳	○妍子（よしこ） 一一二二、一一二四 近衛	○喜子（よしこ） 一一二二、一一二四 近衛	○亮子（あきこ） 一一二二、一一二四 近衛	○好子（よしこ） 一一二二、一一二四 近衛	○休子（のぶこ） 一一二二、一一二四 近衛	○惇子（あつこ） 一一二二、一一二四 近衛	○功子（いさこ） 一一二二、一一二四 近衛	○潔子（きよこ） 一一二二、一一二四 近衛	○肅子（すみこ） 一一二二、一一二四 近衛	○熙子（ひろこ） 一一二二、一一二四 近衛	○利子（としこ） 一一二二、一一二四 近衛	○昱子（てるこ） 一一二二、一一二四 近衛	○曦子（あきこ） 一一二二、一一二四 近衛	○愷子（やすこ） 一一二二、一一二四 近衛	△莊子（まさこ） 一一二二、一一二四 近衛	△權子（よしこ） 一一二二、一一二四 近衛	△祥子（さちこ） 一一二二、一一二四 近衛



# 図書の紹介

私達の「齋宮」について  
より多くのことを知っていただくために  
―地元で読める齋宮関係図書のご紹介―

凡例  
○ふるさと会館（図書館）で貸出可 ○ふるさと会館（図書館）で閲覧可  
☆いつきのみや歴史体験館・博物館ミュージアムショップで販売  
◇齋宮歴史博物館図書ホールで閲覧可

「齋宮」の入門書として	谷口布有緒文 里中満智子画『齋王ロマン 都わすれの詩』明和町◎☆ 中野イツ著『齋宮物語』明和町◎☆ 山川修司著『語り部の竹の齋王語り』近代文芸社◎☆ 榎村寛之著『伊勢齋宮と齋王』塙書房☆
郷土の歴史として「齋宮」を知りたい方に	奥井宏忠著『別れの御櫛―齋の宮と齋宮寮』光書房○◇ 明和町教育委員会編『郷土史に見る齋王』○◇ 三重の文化財と自然を守る会編『伊勢齋王宮の歴史と保存』○◇ 『同Ⅱ』○◇
齋王一行の旅した「群行」の道を歩いてみたい方に	田畑美穂著『齋王のみち―伊勢齋宮の文化史―』中日新聞本社○◇ 村井康彦監修『齋王の道』向陽書房◎☆ 内田康夫著『齋王の葬列』角川書店○◇ 池田美由喜著『鷲草―大津皇子とその姉と―』新風舎◇ 郡俊子著『倭姫宮の御巡行』勢陽文芸◎◇ 々々 『伊勢齋王の恋』近代文芸社◎◇ 『哀しみの伊勢大来齋王』近代文芸社◎◇
「齋王」を小説で読んでみたい方に	津田由伎子著『齋王』学生社○◇ 山中智恵子著『齋宮女御微子女王―歌と生涯―』大和書房◎◇ 々々 『齋宮志』大和書房◎◇ 『続齋宮志』砂子屋書房◎◇ 『齋宮簡記』砂子屋書房◎◇ 所京子著『齋王和歌文学の史的研究』国書刊行会◇ 々々 『齋王の歴史と文学』国書刊行会◇ 榎村寛之著『律令天皇制祭祀の研究』塙書房◇ 中川ただもと著『齋宮和歌の解釈と鑑賞』紫明の会☆ 服藤早苗著『歴史のなかの皇女たち』小学館☆

## 第38回（令和2年度）齋王まつり実行委員会組織体制

（敬称略・順不同）◎班長 ○副班長

本部	代 表 森田 均 副代表 森下 清 本部役員 東谷 泰明 土井 祐治 事務局 山中 いずみ	名誉会長（町長） 世古口 哲哉 顧問 木戸口眞澄 西場信行 浜井初男 上村一弥 北岡 泰 長岡成貢
会計監事	徳田 均 久世 晃	相談役 辻 孝雄 田中 貢 森島啓之 新田一子 橋本久雄 西川道子 渡邊幸宏
総務班	総務の実施 協賛金の計画 グッズ販売・スポンサー等 齋王市の実施 のほり・看板計画実施 出発式・観会場の片付け	◎早川潤一 ○北山房夫 森島啓之 田端正俊 樋口文隆 ○市野秀世 田中真司 岩本温行 下村幸一 竹内克巳 田中 貢 乾 健郎 高橋浩司 大西俊次郎 小林順一 奥山幸洋 長岡 孝 辻 孝雄 辻 正 橋本久雄
着付会場班	着付会場内の管理 出演者の移動 記念写真	◎森 菜津子 ○北川和樹 ○江 京子 石田豊喜 澤 恒一 中瀬正実
着付班	着付け準備と後片付け	◎西宮幸代 ○衣斐喜代美 富山正美 中川啓子 高杉恵子 ○菊矢照子 森下昌子 加藤早和美 ○北山良子 西川美代子 寺西照美 田中政子 新谷千恵子 直井佳代 八田明美 森 洋子 後藤佳江
まつり会場班	前夜祭の実施 アトラクションの実施 社頭の儀の実施 群行の実施 出発式の実施 観の儀の実施 社頭の儀の実施	◎東谷泰介 ○野上但治 前夜祭・アトラクション 社頭の儀 担当 中島 宏 石田真也 前田 航 小林邦久 石田藤生 ◎永井健太 観・出発式・ 齋王群行 担当 ○北村哲也 ○中谷優太 乾 秀治 辻 崇宏 岩上遼平 佐々木久夫 和佐田照夫 ○浜口浩和 伊藤佳史 中井啓悟 北川修平 大和谷勇太 中川裕正 和佐田道子 ○間宮辰典 西道 涼 西岡 潤 井尻季幸 長谷川新 松本友輔 ○丸山浩紀 永島せい子 森川高広 仲勇人 喜多由香子
舞台設営班	舞台の設営及び片付け	◎関岡武夫 ○竹内和持 岩佐康則 ○西岡信行 伊申金市 ○小林正明 秋山修一 笛川浩
広報班	ポスター・パンフレット原案作成 広報・宣伝事業計画	◎山内 理 ※舞台制作作業は実行委員全員で行う





## 第37回（元年度）斎王まつり実行委員会活動報告（敬称略）

（敬称略）

平成31年

- 1月10日(木) 第1回梅まつり会議
- 11日(金) 成人式チラシ入れ
- 15日(月) ポスター校正会議(本部・広報班)
- 20日(日) 会計監査
- 26日(土) 役員会(総会について)
- 29日(火) 第2回梅まつり会議
- 31日(木) 本部会議
- 2月 1日(金) 総会
- 8日(金) 日本遺産活用推進会議
- 10日(日) 出演者募集締切
- 15日(金) 役員会(出演者書類選考)
- 19日(火) 総務・財務班会議(協賛金について)
- 22日(金) 梅まつりのぼり立て
- 24日(日) 子ども説明会(子ども斎王抽選 交流センター)
- 28日(木) 衣裳出し(着付け班)
- 3月 2日(土) 梅まつり(斎宮歴史博物館にて) (斎王役 中保 業平役 槽谷)
- 6日(水) 役員会(選考会について)
- 10日(日) 配役選考会(いつきのみやや歴史体験館)
- 15日(金) 第4回日本遺産会議
- 第3回梅まつり会議
- 26日(火) 松阪警察署打ち合わせ(代表)
- 30日(土) 所作指導会(講師 安永先生)
- 4月 9日(火) コミュニケーションズ主催 対談(代表 斎王役 橋本 前斎王役 中保)
- リーフレット・パンフレット校正会議
- 12日(金) 斎王取材 夕刊三重
- 16日(火) 中勢警備打ち合わせ
- 17日(水) 松阪ケーブルテレビ打ち合わせ
- 18日(木) 斎王市会議
- 19日(金) リーフレット回覧(明和町全戸配布)
- 皇學館大学リクリエーション部打ち合わせ
- 東海テレビ「祭人魂」打ち合わせ取材
- 22日(月) 役員会 自治会長会議(代表出席)
- 24日(水) ロボネット打ち合わせ
- 25日(木) キッチンカー会長 打ち合わせ
- 東海テレビ「祭人魂」打ち合わせ取材
- 26日(金) 第1回全体会議 皇學館雅楽部打ち合わせ

令和元年

- 5月 5日(日) 作業 (竹さき のぼり立て準備 看板出し ステージ製作準備)
- 8日(水) 鉄板敷き
- 10日(金) 足場組み
- 11日(土) 斎王まつり告知イベント イオンモール明和にて着付け体験
- 12日(日) 出演者説明会・リハーサル・ステージ製作・大道具製作
- 17日(金) アトラクション会議
- 19日(日) 午前 のぼり立て/午後 子ども出演者説明会リハーサル・ステージ組み立て
- 21日(火) MC打ち合わせ

- 22日(水) 知事表敬訪問 役場職員説明会(本部・各班長出席)
- 24日(金) 最終全体会議
- 26日(日) 最終ステージ作り 依頼出演者説明会
- 28日(火) 三重テレビ「旬感三重」(斎王役 橋本 前斎王役 中保)
- 29日(水) 斎王市テント立て
- 30日(木) FM三重「まつり告知」事務局出演 着付け班 衣裳準備
- 31日(金) ステージライト合わせ(斎王)
- 6月 1日(土) 前夜祭
- 2日(日) 斎王まつり
- 9日(日) 片付け・反省・打上
- 10日(月) 足場はすし・鉄板はすし
- 12日(水) 衣裳片付け
- 21日(金) 日本遺産活用推進会議(事務局出席)
- 7月 4日(木) 役員会(反省会)
- 12日(金) フォトコンテスト応募締め切り
- 20日(土) 大淀花火大会 三車揃い踏み実行委員会式典 代表・斎王役 橋本挨拶
- 26日(金) フォトコン1次審査
- 30日(火) 役員会(フォトコンテスト入選・入賞作品選考)応募者44名応募作品84点
- 8月20日(金) 第37回斎王まつりフォトコンテスト表彰式について記者クラブ発表
- 30日(火) 第37回斎王まつりフォトコンテスト写真展 展示
- 9月 1日(日) 第37回斎王まつりフォトコンテスト表彰式
- 第37回斎王まつりフォトコンテスト入賞・入選写真展 (斎宮歴史博物館にて9月23日まで)
- 11日(水) 観月会 衣裳準備
- 12日(木) 役員会(臨時総会について)
- 15日(日) いつきのみや観月会(斎王役 橋本 女官役 北岡)
- 20日(金) 臨時総会 観月会 衣裳片付け作業 実施班会議
- 24日(火) フォトコン写真撤収
- 27日(火) のぼり修理
- 10月 2日(水) 役員会(37回について)
- 31日(木) 役員会(38回について)
- 11月5日(火) のぼり修理
- 8日(金) 三重テレビ「旬感三重」いつきのみや秋まつり告知・北岡さん出演
- 13日(水) いつきのみや秋まつり衣裳準備
- 14日(木) いつきのみや秋まつり (斎王役 北岡)
- 20日(水) 衣裳片付け
- 21日(木) のぼり修理
- 12月1日(日) 第38回斎王まつり出演者 募集開始
- 5日(木) 夕刊三重取材「募集について」事務局対応
- 6日(金) 午前38回ゲスト「あつ」さん打ち合わせ
- 午後FM三重「募集について」事務局出演
- 9日(月) のぼり修理
- 12日(木) 役員会
- 20日(金) 梅まつり会議(代表出席)
- 25日(火) 事務所大掃除
- 27日(金) 事務所仕事納め





# 群行衣裳



## 長奉送使【ちようぶそうし】



監送使ともいう。斎王一行を伊勢まで送り届ける群行の最高責任者。沿道における警察権が与えられており、任を終えると直ちに帰京しました。

## 検非違使【けびいし】

平安時代から室町時代にかけて京中の警察を担当した職。元来、平安京の治安維持は京職や衛府の任であったが、特定の官人に京中の警察を担当させることがあり、それが検非違使となり、やがて衛府や京職・弾正台などの権限を吸収し、王朝国家有数の警察機関となったのである。

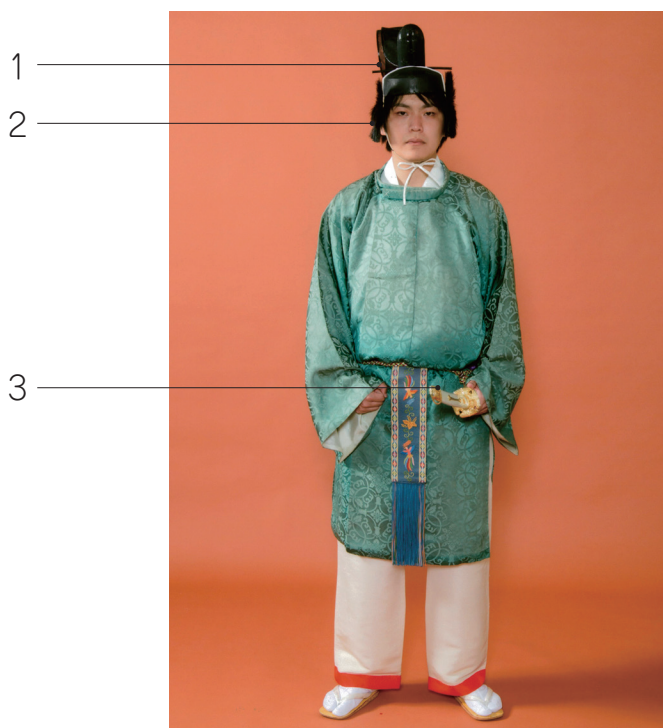
## 看督長【かどのおさ】

検非違使庁の下級職員で、身分は火長。弘仁式制では左右それぞれにつき二人と定めら

れ、貞観・延喜式制に継承されているが、その後次第に増員され、長元八年（一一〇三）の『看督長見不注進状』（『平遣』五二九〜三七七）では左右合わせて十五人を数える。獄直や犯罪の捜査・追捕等を任務とする。尉を中心として編制される警察部隊の一員として出動することがあるが、単独ないし少数の従者を率い、事に従うことが多い。しばしば行き過ぎた捜査や追捕を行い、京民から頼りにされる一方で、恐れられもした。その武力は悪鬼魔神を懼伏するという信仰を生み、『徒然草』二〇三には主上御悩の時、五条の天神に看督長の鞆をかけることが見え、『神道名目類聚抄』には守門の神を看督長と称したとある。



1. 冠 かんむり
2. 綾 あや
3. 太刀 たち



## 斎宮十二司官人【さいくうじゅうにしかんじん】

斎宮寮に属して十二の仕事をする司で勤務する官人

## 駕與丁【かちよう】



斎王の乗る輿（葱華輦）を担ぐ人です。



## 斎王【さいおう】

天皇の即位ごとに、未婚の内親王（天皇の娘）あるいは女王（天皇の兄弟の娘など）の中から占いで選ばれ、天皇の譲位や崩御、あるいは肉親の不幸などにより解任されて、都に帰る決まりになっていました。伊勢神宮の祭りには、六月・十二月の月次祭と九月の神嘗祭に関わるのみで、ふだんは斎宮の中で都と同様の生活を送っていたものと考えられています。

古代から中世にかけての文学作品に登場する斎王も多く、『源氏物語』『伊勢物語』など、多くの文献に残されています。

## 十二単【じゅうにひとえ】

十二単とは近世になってからの呼び名で、正しくは女房装束、または裳唐衣（うわぎ）といいます。単衣の上に袿（うぎ）を重ね、打衣（うちぎ）を着る。袿は前部のないプリーツスカートのような裳（も）をつけます。貴族の女性の晴の衣裳（せいさう）です。

髪は垂髪（たれかみ）、作り眉（うきまゆ）。上衣は、上から順に唐衣（からぎぬ）、表着（うわぎ）、袿（うぎ）、単（ひとえ）となっています。唐衣は袿、衿合わせがなく、上からはおりまします。表着は上の御衣（おんぎ）とも呼ばれる垂領（たるい）広袖（ひろそで）の袷（あじ）仕立てです。打衣は砒（あじ）で打って光沢を出したところからこの名があります。形は表衣と同じで紋様はありません。袿は、内衣の意味で、垂領、広袖の袷仕立てで地紋があり、数枚重ねて用います。単は袿と同形ですが、衿、丈ともに長く、単仕立てで裾はひねり仕立てになっています。下衣

には袴（はかま）と裳（も）をつけます。袴は緋（べに）の長袴（ながはかま）（若年未婚は濃色）、裳は背にあてて結び、後に長く垂らして引きます。



1. 垂髪 2. 唐衣
3. 表着 4. 打衣
5. 衣（袿）（枚数を重ねている）
6. 単 7. 長袴 8. 裳（全体）
9. 裳の小腰 10. 裳の引腰
11. 櫛扇（相扇） 12. 貼紙
13. 日陰の糸（玉かずら）

※斎王が付けていたかどうかは定かではありません。



## 内侍または命婦【ないし または みょうぶ】

斎宮で働く女官たちの最高責任者として、乳母や女孺の上に立つ立場にありました。

## 女別当【によべつとう】



内侍や宣旨が、斎王の住むエリアで公的性格をもつ仕事をこなす女官であるのに対して、乳母のように、斎王のプライベートな「宮家」としての用向きを担当していたのではないかと考えられますが、詳しいことはわかりません。

## 乳母【めのと】

母親に代わって養育を受け持つ女性で、斎宮には、斎王個人の「家」に仕える存在として、二名ないし三名が務めるようになっていました。

## 女孺【にようじゅ】



「めのわらわ」ともいう女官で、一等から三等に分かれており、それぞれに課せられた実務を担当していました。

## 采女【うねめ】



都では、地方の郡司の娘から選ばれ、天皇の御前などに奉仕していました。しかし、斎宮に采女がいたかどうかについてはよくわかっていません。

## 童・童女【わらわ・わらわめ】

都の官人が、家族で斎宮に赴任したということも考えられますが、その子供達が斎宮内に住んでいたという可能性はあります。しかし、群行の一員として加わっていたということはなかったようです。





第三十七回 斎王まつり

# 斎王フォトコンテスト

斎王賞



「出発の前夜」

明和町 出口 美智子

明和町長賞



「令和の大来皇女」 明和町 井上 清一

明和町教育長賞



「葱華輦との旅」

明和町 太田 昇

斎宮歴史博物館館長賞



「やんごとなき出立に向けて」

伊勢市 井村 義次

明和町議会議長賞



「時代は次代へ」 津市 川口 瑞貴





「斎王の微笑み」 明和町 間宮 修

特別賞



「愛らしい子ども斎王」

志摩市 山本 幸平

特別賞

特別賞



「楽しい群行」 明和町 西岡 育生



「一輪の花に思いを託す」 伊勢市 山下 和宏

特別賞



「楽しい群行」 津市 紀平 茂晴

特別賞

## 斎王まつりフォトコンテスト作品募集

### ◆サイズ

・カラーまたは白黒作品でサイズは四つ切のみ。

### ◆応募締め切り

・令和2年7月15日(水)当日消印有効

(郵送中の事故、破損については責任を負いかねます。)

### ◆応募方法

・応募用紙を作品裏面に貼付、郵送または斎王まつり事務局受付。

### ◆応募上の注意事項

・応募作品には、応募者本人が撮影したもので

一人2点以内(未発表の作品)に限りです。

・応募用紙の各項目に楷書で記入し、題名お名前にはかならずフリガナをつけてください。

(複数応募の場合はコピーしてください。)

・入賞、入選作品については、あらためてデーターをお借りすることがあります。

・パンフレットやポスター、ホームページなどへの使用

権は主催者に帰属します。

・応募作品のご返却はいたしません。

### ◆賞

・入賞は、10賞(斎王賞ほか)、入選は10作品

### ◆選考方法

・作品は斎王まつり実行委員会にて選考いたします。

### ◆発表

・HPにて発表いたします。

### ◆応募先

入賞者には直接通知いたします。(8月上旬頃)

### ◆応募先

斎王まつり実行委員会「フォトコンテスト」係

### ◆応募・問い合わせ先

〒515-1032

三重県多気郡明和町斎宮2811番地

斎王まつり実行委員会事務局

電話 059615210054





第35代 齋王役  
橋本 茉奈

## 齋王役を務めて

平成から令和へと御代代わりの記念すべき年に、齋王役を務めさせていただいたことを心から嬉しく思います。また、この一年間多くの皆様を支えていただいたお陰で、一年間のお役目を無事果たしましたことを心より感謝申し上げます。

「第37回齋王まつり」では出演者に所作指導が入り、より優美で風雅な世界をお届けすることが可能になりました。さらに改元記念「大伯皇女物語」が上演されたことで、齋王制度の始まりとそれに対する人々の願いがお伝え出来たのではないかと思います。まさに「新しい歴史のはじまり」というサブタイトルにふさわしいおまつりになりました。

歴史の中で築かれた「齋王らしい」という印象を守りつつ、「私らしい齋王」とは何だろうかと模索する一年でございました。見ていただいたすべての皆様の心に、新たな印象をお届けすることが出来たなら幸いです。

齋王まつりを支えてくださった関係者の皆様、そして齋王まつりを愛して下さる皆様に、深く御礼を申し上げます。

新しい時代ははじまったばかりです。齋王まつりは伝統を大切にしながら、これからも進化していくことでしょう。ぜひ皆様の目で、その進化を見届けていただけないでしょうか？

どうぞ齋王まつりをこれからもよろしく願っています。



子ども 齋王  
飛矢地 愛結

## 子ども 齋王を務めて

私は夢にまで思っていた「子ども齋王」になれて、とてもうれしかったです。

「子ども齋王」のきものを着る時に、女別当さんたちに優しくしてもらいました。「さんちようするね」とか「寒くない？」と声をかけてくれてうれしかったです。あの時、優しくしてくれてありがたうございました。とてもいい思い出になりました。



葱華葦復元模型 (齋宮歴史博物館蔵)

## 新しい歴史のはじまり

齋王まつり実行委員会 代表 森田 均

今年で齋王まつりも第38回を迎えます。

毎年たくさんの方の御来場、誠にありがとうございます。また協賛金等、あたたかい御支援もいただき重く御礼申し上げます。

前夜祭におきましてはFM三重で御活躍中のシンガーソングライターあつさんとパーソナリティの多田えりかさんがゲストとして出演していただく予定です。各団体での個性あふれるアトラクション（ダンス・演奏等）を楽しんでいただく中、司会にトークにと祭りを盛り上げていただきます。

クライマックスではステージ上で艶やかな衣装に身を包んだ今年の齋王を始め、出演者の紹介をさせていただきます。

7日の日曜日は、齋王群行を中心に出発式・禊の儀・齋王群行・社頭の儀の各儀式を実施します。

日頃の喧騒を忘れゆつくりと進む時間の流れの中の各儀式を御覧ください。

年齢を問わず楽しんでいただけたと思いますので是非御来場いただければと思います。



## 主催／齋王まつり実行委員会

後援◎三重県、明和町、明和町議会、明和町教育委員会、明和町観光協会、明和町商工会、齋宮歴史博物館、(公財)国史跡齋宮跡保存協会、(一財)民族衣裳文化普及協会、中部運輸局三重運輸支局、近畿日本鉄道株式会社、NHK津放送局、三重テレビ放送(株)、三重エフエム放送(株)、松阪ケーブルテレビ・ステーション(株)、皇學館大学

協力◎有レイルロード、北村音響

問い合わせ◎齋王まつり実行委員会事務局 TEL.0596-52-0054 FAX.0596-52-7274

<http://saioh.jp>

定価100円